



概要版

この概要版は、「美浜町都市計画マスタープラン」の概要をとりまとめたものです。

詳しい内容につきましては、ホームページ、町役場及び各公民館にある計画書をご覧ください。



美浜町 都市計画 マスタープラン

～より良い生活空間づくりと
その実現に向けて～

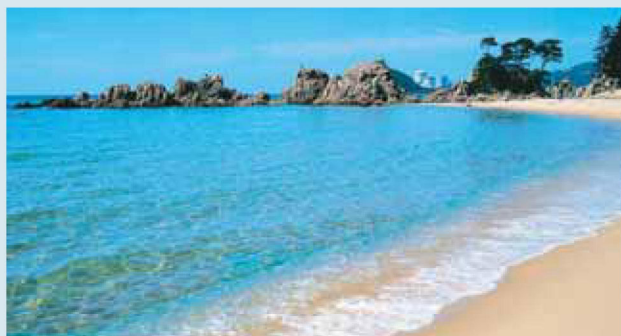


■美浜町都市計画マスタープランとは

美浜町都市計画マスタープランは、第四次美浜町総合振興計画などの上位計画を踏まえて、都市の将来像や土地利用、交通体系といった、まちづくりに関する各分野の基本方向を明らかにするとともに、地域と行政が協働で進める地域毎のまちづくりの方針を定めたものです。

美浜町都市計画マスタープランには、次のような役割があります。

- ①実現すべき具体的な都市の将来像を明らかにする
- ②具体的な都市計画の決定・変更の指針となる
- ③個別の都市計画相互の調整を図る
- ④住民や事業者の理解、具体の都市計画の合意形成を図る



1 まちづくりの目標

まちづくりの目標

美浜町都市計画マスタープランでは、第四次美浜町総合振興計画に掲げる将来像「自然 かがやき 人 いきいき まちがにぎわう 美し美浜」を踏まえ、真に暮らしやすい生活空間づくりを実現するため、4つのまちづくりの目標を定めています。

～将来像～

自然
かがやき

人
いきいき

まちが
にぎわう

美^{うま}
し美浜

目標1 まちの活力を創出する多様な拠点とネットワークづくり

舞鶴若狭自動車道の整備効果を最大限に活かした活力あるまちづくりを進めるため、安定した電力供給等の条件を活かした産業集積地の形成や豊かな自然資源を活かした交流拠点の育成、形成を推進します。また、舞鶴若狭自動車道や国道27号を骨格として、これら拠点にアクセスしやすいネットワークを形成し、交流と連携による活力創出を図ります。

目標2 安心して暮らせる持続可能な生活空間づくり

豊かな自然環境との共生を前提としつつ、地震や津波、ゲリラ豪雨、土砂災害などへの備えを十分に整えるとともに、老朽住宅・施設の耐震診断、建替促進等により、安心して暮らせる環境づくりを進めます。

豊かな暮らしの実現に向けて、都市サービス機能や行政・文化サービスの利便性を高めるとともに、安全な道路空間、身近な遊び場、身近な移動手段の確保など、質の高い生活空間を創出します。

ラムサール条約登録湿地である三方五湖を有するとともに、国内有数の電力供給地である地域特性を認識し、低炭素まちづくりなど地球環境問題への積極的な対応に取り組みます。

目標3 美浜の「美」を継承するまちづくり

三方五湖や水晶浜に代表される海、山、川、湖という変化に富む美しい風景は、美浜の誇りです。また、佐柿国古城址をはじめ、町内には往時を偲ぶ寺社、史跡、古い町並みなども残されています。

これらを質の高い生活空間の背景として良好に保全するとともに、さらに質の高い景観へと育成し、住民共有の財産として継承していきます。

目標4 共学と協働で進めるまちづくり

これからのまちづくりには、住民と行政との協働の視点が欠かせません。今まで取り組んできた協働のまちづくりをさらに発展させ、住民全員で共学と協働で進めるまちづくりを進めるため、住民のまちづくりに対する意識を高めるとともに、よりよい生活環境を実現しようとする主体的な取り組みを育んでいきます。また、多様な参加機会の拡充やあらゆる機会での協働関係づくり、参加しやすい体制づくりに積極的に取り組みます。

将来都市構造（目指すまちの骨格的な姿）

基本的な土地利用の考え方（ベースとなる土地利用）

市街地地域		生活の利便性を高めるとともに、既成市街地の再編、基盤整備と一体となった宅地化促進などにより、コンパクトで住みやすい生活空間を創出します。
田園地域		本町を特徴づける景観要素として適切に維持・保全を図るとともに、農村集落は、昔ながらの良好な集落環境を維持しつつ、田園風景との調和を図ります。
森林地域		眺望景観の対象として、また、水源涵養や災害防止など、緑が有する多面的な機能に配慮しつつ、調和の取れた保全と活用を進めます。

多様な交流を支える軸づくり

広域連携軸		広域的な人や物の流れを支える広域連携軸として位置づけ、整備促進、機能強化を図ります。
地域間連携軸		隣接都市間、都市内の連携を強化する軸として位置づけ、広域的な連携や生活拠点との連携、地域間連携を促進する機能の強化を図ります。



個性ある拠点づくり

生活拠点		多様なサービス機能が集積する生活拠点として、より一層の機能集積を目指します。
産業拠点		周辺環境との調和に配慮しながら、活力ある操業環境を創出します。
健康福祉拠点		住民の健康維持・増進の拠点として、誰もが訪れやすく利用しやすい空間づくりを目指します。
アグリ交流拠点		地域の農業との連携を図りつつ、環境保全型農業の研究・交流の拠点にふさわしい空間形成を図ります。
スポーツ交流拠点		誰もがいろいろな目的で楽しめるスポーツ・レクリエーションの拠点として、機能充実を目指します。
歴史文化拠点		歴史・文化を後世に継承するための魅力ある空間の維持・形成を図ります。
水と緑の拠点		アクセス性の向上や機能充実、周辺環境と一体となった良好な景観づくり、視点場づくりを目指します。
親水交流エリア		身近に水に親しむとともに、人と人との新しい交流が生まれる空間として、誰もが集いやすい環境づくりを目指します。

【将来都市構造図】